

基本方針	心身ともにたくましく 心豊かに生きる子どもの育成
めざす子ども像	・ あいさつをする子 ・ 元気よく外で遊ぶ子 ・ 進んで活動する子
重点目標	①基本的な生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度を育てる。 ②身近な人や自然・地域との関わりを通し、直接体験活動を重視する。 ③園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ④保護支援に努め、地域の子育て支援拠点として機能させる。
具体的目標	①園児の様々な気づきや心の動きに共感する指導に努める。 ②一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った支援をする。 ③一人ひとりの特性や発達課題を捉え、特別支援教育を進める。 ④保育のねらいや生活の様子をきめ細かく家庭に伝える。(説明責任を果たす) ⑤園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。(学びの連続性)

自己評価結果(達成状況) 【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

こども園関係者評価

評価の観点	評価項目	取り組みの状況	達成状況	改善の方策	関係者評価委員から
園運営	○職員の資質向上 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・市教委指定の公開保育を受け、大学教授からの指導を受けた。・園内研修では、指導主事、音楽療法士、体育指導、教育相談員を講師に招き、専門知識を身に付ける機会となった。・キャリアアップ研修やオンライン研修に積極的に参加し、研修での学びを職員会で共有した。○各委員会、幼保部会等で意見を出し合い、園全体で共通理解し、円滑な組織運営に努めた。	B	・公開保育を受けることにより、全職員で保育・教育・環境について見直すきっかけとなったことは良かった。今後も各委員会の取り組みを充実させ、園内研修の回数を増やしたり、指導主事や外部講師の実践事例を通して、職員同士が学び合う機会を増やす。	・研修を増やし、職員同士の意見交換をしながらコミュニケーションを図る。楽しい園づくりをする。・職員自己評価アンケートにハラスメントの項目を作り、職場環境をよくしていくことが大切。・清掃や消毒等は、外部に依頼し、保育者の負担を減らし、保育・教育に専念できるようにした方がよい。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○認定こども園教育保育要領に示されたねらい内容を取り入れて編成を行う。 ・「好きな遊びからの学び」や「環境を通じた学び」について重点的に取り組んだ。 ・一人ひとりの子どもの姿をしっかりと捉え、興味関心にあった「ぴったりな保育」を目指した。	B	・各年齢の発達に応じた保育・教育に取り組み、0歳児から5歳児までの繋がりを大切にしている。・園児一人ひとりの育ちの過程や興味関心に基づいた関わりがもてるように、遊びや心の動きを記録にとり、主体的に活動できる環境を整え、一人ひとりの学びへと繋げていく。	・園では、遊びからの学びを大切にしている。一人ひとりの興味関心からの関りや環境を整え、主体的に活動する姿をどんどん発信していき保護者理解を図ることが大切。・園児が「楽しい」と思える保育をしてもらっている。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を年96回実施した。 ・コロナ感染予防対策をとりながら、支援室利用の人数制限を設けたり、電話訪問により、育児の悩みや家庭での様子を尋ねて、相談しやすい雰囲気作りをした。 ○よい子ネットを利用して、子どもの遊びや給食レシピ、子どもが罹りやすい病気や怪我等の紹介した。	A	・すくすくひろば利用の保護者のみに限らず、保護者が気軽に相談できる体制を整える。・参観日に合わせて講演会を開催する等、保護者の教育力が高まるようなイベントを行ったり、親子が育つ場としての役割を果たせるようにする。	・先生達は、笑顔で挨拶してくれて安心して子供を預けられている。保護者アンケートの子どもの姿では、A・Bの結果が多いことから、保護者は安心して預けていることが推測される。・すくすくひろばでは、アットホームで笑顔で迎えてもらっている。相談しやすく、季節に合った遊びもあり、親子で楽しめている。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○不審者対策として、園周辺の防犯カメラを4台から7台に増やし、常に事務所から監視できるようにした。○毎月の遊具点検に加え、専門業者による遊具点検も行った。○職員の危機管理能力の向上では、毎月の避難訓練、誤嚥誤飲防止のための玩具点検、プール監視時の研修、バス降ろし忘れ防止マニュアルの徹底、不適切保育防止セルフチェックや子どもの人権を守る研修(オンライン・園外・園内研修)を行った。・避難時に備え、防災頭巾購入○交通安全教室を行い、交通ルールを指導したり、園外保育時に危険な場所があれば、園外保育届に記入し各担任に周知できる工夫をした。○看護師による健康チェックや健康教室、園医や薬剤師と連携を行い、園児の健康やコロナ感染防止対策に努めた。	A	・不審者対策では、更に安全な環境を整えるため、門扉の自動錠やフェンスの取り換え工事を行う。・職員の危機管理意識が薄れることのないように定期的に園内研修を行う。・園児の怪我やヒヤリハットの事例は、全職員で共有し、再発防止に努める。・自然災害時(土砂崩れ・大雨・地震)の対応は、避難方法や保護者への引き渡し等、スムーズに行えるように訓練していく。・交通ルールについては、その都度約束事を確認すると共に散歩コースにも十分気を付ける。・感染症が出た場合、保健日よりよい子ネットで発信し、感染拡大防止・感染予防意識に繋げていく。	・園の門扉は、誰でも侵入しやすく、心配していたが、自動錠の予定をしていると聞いて安心した。・防犯カメラで園周辺を常時見られることは防犯上よいことであるが、警備員や男性職員を雇用してはどうか?・保護者駐車場のスペースが狭いので、スムーズに出入りできるように周知した方がよい。駐車場確保の目途を立てたらどうか?
特別支援教育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○市の保健師や心理士による巡回相談を行い、支援方法を共有した。(年2回) ○専門機関(ステップ相談・おひさまにここクリニック・もみじ等)と連携を図りながら、よりきめ細やかな支援に繋げた。○学期毎に支援計画を立て、面談で保護者に説明をするとともに保護者の思いを聞き取り、関係機関や小学校(通級・入級等)に繋ぐことで安心して就学できるようにした。・巡回相談時には、小学校教員が来園し、園児の様子を見たり、支援の仕方を聞いて就学に繋げていくようにしている。	A	・園内特別支援委員会で、計画的な指導内容、指導方法の充実を図り、一人ひとりの実態把握をし、具体的な支援方法を協議しながら実践に繋げ、よりきめ細やかな支援に繋げる。今後も保護者との合意形成を図りながら、学級においても互いに認め合いながら、友達との繋がりを大切にできる活動となるようにする。・支援を要する園児について全職員が共有し、同じ関わりをしていく。	支援を要する園児については、特性や支援の仕方を担当保育者だけでなく、全職員が把握し、みんなで関わっていくことが大切である。
家庭・地域 他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○「園児の安全と保護者の安心」が一番であるので、コロナ感染状況や対応、避難訓練の様子、当園の危機管理対応等を発信するように努めた。・よい子ネットやおたよりを通して、園の取り組みや教育・保育を理解してもらおう機会とした。・参観日等の保護者参加行事は、保護者入れ替え制や人数制限等、感染防止対策を行いながら実施した。○小学校との交流 ・登校練習(5回)、学校見学、体験入学、1年生や5年生との交流、運動会練習見学、夏休み作品展見学等を行い、就学への不安をなくし、期待を膨らませるようにした。和式トイレへの不安が多いので、学校や園の和式トイレでの練習を行った。・園小打ち合わせ会議を実施した。 ○地域との交流 ・畑を借用して、さつまいもや黒豆の苗植えや収穫をさせていただいた。・幸世郵便局で年賀状を投函し、郵便局の仕事について局長さんから話を聞いた。	B	・信頼される園作りのために、園の教育・保育を発信して理解を得るよう努める。また、保護者の意見に耳を傾け、家庭と園との相互理解を図る。 ・小学校との連携では、園の学びが途切れることなく、小学校へと繋がるように、職員同士の参観や研修会を行い、お互いの教育を共通理解する場となるよう園から働きかける。 ・園外保育で地域の方に触れあえる機会を設けたり、ゲストティーチャーや地域の資源を活用することで、地域の素晴らしさを学んだり、地域を愛する子どもの育成に努める。	・新学期、担任の顔はクラスだよりの写真で確認できるが、他の職員は分からないので、全員の顔写真を配布してほしい。・小学校との連携で、登校練習をしてもらっているが、地域の子や集合時間等、分からないことが多いので、詳しく教えてほしい。小学生になると挨拶が減ってくるが、大人から何回も声掛けをしていくと子どもからも挨拶をするようになる。・次年度は、小学校前に畑を借りて、さつまいもや枝豆を栽培する予定なので、地域の方や小学生との繋がりが深められることに期待している。

こども園関係者評価のまとめ

ほとんどの保護者は、安心して預けられたり、園児も園生活を楽しんでおり、双方とも満足している。しかし、少数の満足できていない人にスポットを当てることも大切。職員同士、また、保護者が職員に何でも話せる雰囲気作りをすることが大切。職員のストレスも多いので、人員を増やしたり、外部に依頼したりして教育・保育に専念できるように改善していく。不審者対策はされているが、今後も更に強化し園児の安全を守る。小学校との連携をさらに深め、安心して就学できるようにしていくことが必要。保護者駐車場が狭いので、用地確保に向けて、目途を立てて行ってはどうか?

園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ・職員自己評価アンケートにハラスメントの項目を追加し、退職者を減らしていくようにする。
- ・不審者対策、交通安全等、安全面のさらなる強化を目指す。
- ・小学校との連携をさらに密にし、親子とも安心して就学ができるように配慮していく。

令和5年3月31日

園名 認定こども園さちよ

園長 芦田 淳子

